

## 福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（3月）

留学先：東呉大学

<台北・士林について>

先月の月例報告書には主に大学のことについて書きましたが、今回はわたしが留学している東呉大学がある台北市士林区について紹介したいと思います。台北市は台湾の首都であり、その名の通り台湾の北部に位置しています。台北市の人口は約270万人です。大都市であるため、基本的にどこへ行っても街並みは都会的です。日本の百貨店が進出していることも多く、SOGO百貨店や新光三越があちこちに見られます。台北市は交通網が非常に発達していて、台北駅にはMRT(地下鉄)・高鐵(新幹線)・台鐵(鉄道)が通っています。それらに加えて、タクシーやバスなどの交通料金も非常に安価なので便利です。公共交通機関を利用する人たちは悠遊卡(悠遊カード)という、ICカードを使うことがほとんどです。このカードは発行するのに100円かかりますが、私の大学では学生証と一体型になった悠遊卡が支給されました。

そんな台北市の中にある士林区が私の現在いる大学の場所です。士林区は主に夜市と故宮博物院が有名な観光スポットです。士林夜市には、食べ物・服・雑貨などを売る屋台がたくさんあります。台湾ではどこでも売られているタピオカジュースや、台湾フードである魯肉飯や臭豆腐だけではなく、日本食を売っているお店も多いです。値段も手頃で、士林ではたくさんご飯を買っても150元(日本円で言うと530円程度)以内に収まることも多いです。士林夜市を訪れる日本人・韓国人観光客も多いので、日本語や韓国語で書かれた看板も見ることができます。(ちなみに士林夜市の最寄駅は士林駅ではなく、劍潭駅です)

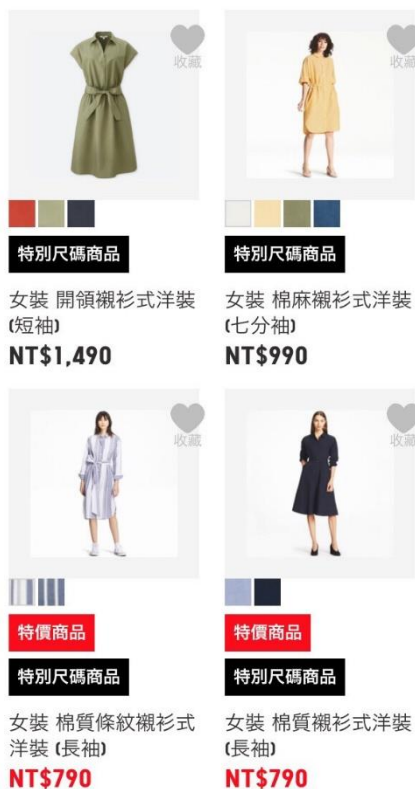


故宮博物院は、数多くの古代中国の美術品や骨董品が展示されている国立博物館です。書道の作品も展示されていたので、書道部の私はかなり嬉しかったです。ちなみに東呉大学から故宮博物院までは歩いて20分程で着きます。東呉大学の学生は学生証を提示すると入場料が無料になります。

<台湾の中の日本>

続いて、ここまで1ヶ月半台湾で留学してきた中で、「台湾の中にある日本」に焦点を当てて、気付いた点をひとつ上げていこうと思います。まず台湾に来て思ったことは、「台湾って日本の製品、日本のお店がたくさんある！」ということ。台北市内をMRTやバスで移動して買い物をする時、街の中には多くの日本食レストラン、日本の百貨店、日本のブランドの雑貨を見ることが出来ます。つまり、それほどまでに台湾の生活の中には日本の製品が広く普及されているということです。

しかし、同時に日本の製品はハイブランドだと見られていると感じる事も多いです。例えば、コスメブランドである canmake やファッションブランドの UNIQLO。どちらも日本製ですが日本の中では低価格帯のブランドです。しかし、台湾でそれらのブランドの製品を日本と同じように買おうとすると、日本で買うよりも大分値段が高いと感じます。しかし、私がユニクロを訪れると、いつも台湾人のお客さんが多くの服を買っている光景を目にします。つまり、台湾では日本製の服やコスメは値段が多少高くても、買う価値があると認識されているのではないのでしょうか。台湾に留学しようと思っている学生の方は「台湾は日本製のブランドが多いから、現地で日本のものを買えばいいか」と思っていると痛い目を見るかもしれません。



<おわりに>

今回の月例報告書は主に台北・士林の紹介と台湾の中における日本製品について紹介しました。この報告書で台湾という国に興味を持っていただけたら幸いです。

現在、4月初めの士林の最高気温はすでに25~28度で、大学内も半袖の人が多く、すでにショートパンツを履く女の子もそこそこ多いです。今の時点でそんな服装なら夏どんな服着るの……と思います。ではまた次の報告書で！